

サバ類の資源生態研究

(水産資源調査・評価推進委託事業)

(予算区分 受託 研究期間 1995 年度～)

担当：水産・海洋技術研究所 資源海洋科 市川喬雅

【研究の背景とねらい】

2020 年 12 月に施行された新漁業法により、我が国周辺におけるサバ類（マサバ、ゴマサバ）については、水産資源の保存及び管理を適切に行うために最大持続生産量（MSY）に基づく資源評価を行うことが求められています。そのため、関係機関が連携して資源動向を把握するために必要なデータを収集し、漁獲状況の把握や資源評価、漁況予測等を行っています。

【これまでに得られた成果】

- ・水揚量調査、体長測定、年齢査定、標本船調査等を定期的を実施し、水産研究・教育機構や、他都道府県等と連携して資源評価と長期漁況予測を行いました。
- ・マサバ太平洋系群の資源量は 1970 年代には 400 万トン前後で推移していましたが、1980 年代から減少し、2001 年には 15 万トンまで減少しました。その後 2005 年頃から増加傾向に転じ、2021 年の資源量は 488 万トンと推定されました。
- ・ゴマサバ太平洋系群の資源量は 1995 年から 2003 年頃まで 30 万トン前後で推移していましたが、2004 年以降増加し、2009 年には 70 万トン以上の高い水準となりました。しかし、2011 年以降減少傾向となり、2021 年の資源量は 8.7 万トンと推定されました。
- ・2021 年のマサバ親魚量は 164 万トン、ゴマサバ親魚量は 4.2 万トンで共に MSY を実現するための目標親魚量（マサバ：155 万トン、ゴマサバ：15.8 万トン）を下回りました。
- ・伊豆諸島海域におけるサバ類の来遊量や漁場等の情報から 2022 年 7 月と 12 月に長期漁況予測を作成し、県内関係者へ情報提供しました。

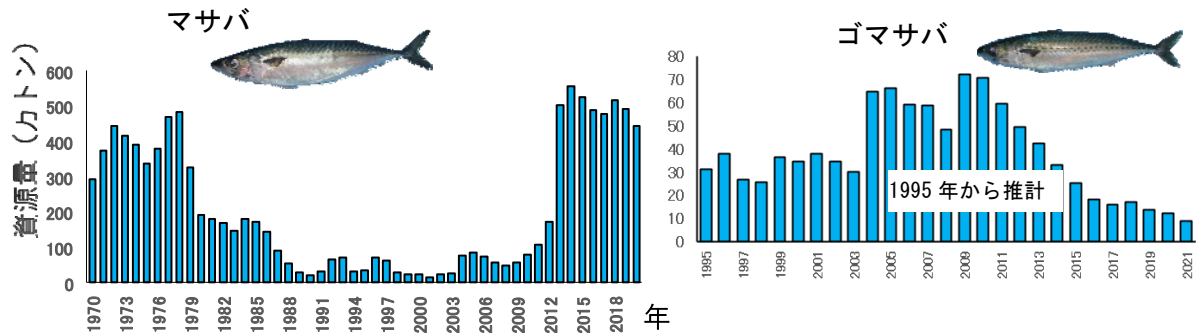


図 サバ類資源量推移

【期待される効果】

- ・収集した各種データから資源動向を把握することで、資源管理が適切に行われ、資源の持続的利用を図ることができます。
- ・漁況予測を関係者へ提供することで、漁業者の計画的経営に貢献することができます。

【今後の計画】

- ・ゴマサバ資源は減少傾向にあるため、引き続き資源動向、漁況を注視していきます。
- ・マサバ資源は成長・成熟に遅れがみられるため、年齢査定や卵巣組織切片観察等から成熟・産卵状況を把握していきます。

(作成 2023 年 4 月)